

会議録

会議の名称	第1回 西東京市地域コミュニティ検討委員会
開催日時	平成23年8月2日
開催場所	西東京市役所 田無庁舎 3階庁議室
出席者	委員：伊村委員（委員長）、伊藤委員（副委員長）、鶴野委員、岡村委員、工藤委員、四村委員、菅野委員、土方委員、円山委員、望月委員 事務局：生活文化スポーツ部長、協働コミュニティ課長、協働コミュニティ課市民活動推進係長、協働コミュニティ課市民活動推進係主事、株式会社エックス都市研究所
議題	(1) 地域コミュニティ検討委員会の概要について 1 地域コミュニティ検討委員会の目的について 2 検討内容について (2) 委員会の中心的検討テーマとスケジュール (3) 西東京市における地域コミュニティの現状について 1 自治会・町内会の現状について 2 地域コミュニティに関わる主な組織について (4) その他
会議資料の名称	【資料1-1】地域コミュニティ検討委員会の概要 【資料1-2】委員会の中心的検討テーマとスケジュール 【資料2-1】西東京市自治会・町内会現状調査報告書 【資料2-2】西東京市自治会・町内会分布状況（地域別自治会・町内会数及び人口集積状況） 【資料2-3】庁内における自治会・町内会等との連携に関する調査結果の一覧 【資料3】自治会・町内会以外の地域コミュニティに関わる主な組織 補足資料 【資料2-1補足】西東京市の自治会・町内会の特徴 【資料1-3補足】庁内における自治会・町内会等との連携に関する調査結果概要
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 開会</p> <p>○事務局：</p> <p>第1回西東京市地域コミュニティ検討委員会を開会する。まず、本日の議題を確認させていただく。 (議題の確認)</p> <p>次に、資料の確認をさせていただく。 (会議資料の確認)</p> <p>2 市長あいさつ</p> <p>○事務局：</p> <p>それでは、はじめに西東京市長よりご挨拶申し上げます。</p>	

○市長：

(あいさつ)

3 事務局紹介

○事務局：

次に、会議に先立ち、事務局職員体制についてご紹介させていただく。

(事務局職員体制の紹介)

4 委嘱状伝達

(市長より依頼状交付)

5 検討委員自己紹介

(検討委員の自己紹介)

6 検討委員会の運営

(検討委員会の運営についての説明)

会議録の記録方法の選択について、特に意見がないようであれば、発言者の発言内容ごとの要点記録として取り扱いさせていただく。

7 委員長および副委員長の選出

○事務局：

次に、検討委員会設置要綱第5の規定に基づき、本委員会の委員長および副委員長の選出を行う。立候補または推薦はあるか。

ないようであれば、事務局から提案させていただきたい。委員長を伊村委員にお願いしたいと思うがいかがか。(拍手)

次に副委員長であるが、委員長にご推薦いただきたい。

○委員長：

副委員長については、伊藤委員を推薦したい。

○事務局：

委員長から伊藤委員のご推薦があったが、副委員長をお願いしてもよいか。(拍手)

委員長から、一言抱負をいただきたい。

○委員長：

西東京市のいい地域コミュニティを形成していくためにお力をお借りしたい。

○事務局：

副委員長からも一言いただきたい。

○副委員長：

消防は、自治会・町内会との結びつきが必要な防災機関なので、連携して安心な暮らしができるような西東京市にしていきたいと考えている。

○事務局：

委員長が選出されたので、以後の進行は、委員長にお願いしたい。

議題（1）地域コミュニティ検討委員会の概要について

1 地域コミュニティ検討委員会の目的について

2 検討内容について

○委員長：

まず、議題（1）地域コミュニティ検討委員会の概要について事務局から説明願いたい。

○事務局：

（資料 1-1 について説明）

○委員長：

事務局から説明があったが、何か、意見や質問などはあるか。

意見がないようなので、次の議題に移りたいと思う。

議題（2）委員会の中心的検討テーマとスケジュール

○委員長：

議題（2）委員会の中心的検討テーマとスケジュールについて事務局から説明願いたい。

○事務局：

（資料 1-2 について説明）

○委員長：

事務局から説明があったが、何か、意見や質問などはあるか。

○委員：

モデル的な施策の検討について、モデル地区を決めるのか、それともモデル地区を決めなくても、どこかで施策を実施するのか。もし施策を実施するのであれば、24年度末までに実施するのか、25年度に入ってから実施するのか、事務局として、こういったスタンスを想定しているか。

○事務局：

モデル的な施策については、モデルとなる地区を選定し、行政や行政以外の市民組織、自治会・町内会とが連携する仕組みづくりを進めたいと考えている。また、モデル地区での成功例を他の地域に波及させていきたいと考えている。

現在、西東京市が実施している、ふれあいのまちづくり事業が、今回事務局が想定している連携の仕組みに似ている。できれば、ふれあいのまちづくり事業も活かせるような連携の仕組みづくりができればと考えている。

実施時期について、23年度、24年度は、現状を把握し、先進地の状況を踏まえて、西東京市にマッチしたコミュニティづくりを十分に検討した後、モデル地区を選定したいと考えている。25年度以降に、モデル地区で仕組みの運用ができればと考えている。

○委員：

モデル地区は、既存の自治会・町内会をベースにして、連携・強化の方法に重点を置いた形にするということでしょうか。

○事務局：

既存組織の強化を行った上で、希薄化している地域については、「その強化した組織」がカバーするような仕組みを想定している。

議題（3）西東京市における地域コミュニティの現状について

○委員長：

次の議題に移りたいと思う。議題（3）西東京市における地域コミュニティの現状について、事務局から説明を願いたい。

○事務局：

（資料2-1～資料3および補足資料2-1および2について説明）

○委員長：

事務局から説明があったが、何か、意見や質問などはあるか。

ないようであれば、こちらからひとつ伺いたい。たとえば、資料3の地域包括支援センターや消防団などは、西東京市全域を均等にカバーしていると理解してよいのか。それとも、地域によっては偏りがあるのか。

○事務局：

西東京市は、合併した市ということもあり、消防団などは、多少偏りがあるものと思われる。ただし、地域包括支援センターについては、合併後にできたものであり、西東京市全域を8か所でカバーをしている。

○委員長：

「ある地域にはまったくない組織」というものはないと考えてよいのか。

○事務局：

一例をあげると、民生委員児童委員については、地域によって、委員が少ないところや充実しているところがあるなど、バランスが良くないのが実情である。

○委員：

昨年、西東京市では、西東京市地域福祉計画策定・普及推進委員会という同じような委員会がおこなわれていた。その委員会での資料と、資料 2-2 の自治会・町内会数の数値が合わない。

また、当委員会では、第 2 回も、自治会・町内会の課題の抽出などと示されているが、すでに先の委員会で行ったアンケート調査では、自治会・町内会の課題が抽出されているようである。今後は、そのあたりの連携を図ったほうが良いかと思う。

西東京市と武蔵野市だけが、自治会・町内会を把握していないようだが、他市ではなぜしっかり自治会・町内会が把握できているのか、また、他市によって様々な施策がおこなわれているが、その施策の秘訣とは何かなど、次回以降、資料があれば、提示していただきたいと思う。

○委員：

自治会・町内会の数について、資料 2-2 は、調査した自治会・町内会の数ということか。回答がないところもすべて含んでいるのか。

○事務局：

回答がないところも含めている。

○委員：

西東京市内、自治会・町内会の組織率がどれくらいになっているのか。

○事務局：

次回以降、お示ししたいと思う。

○委員：

この委員会では、自治会・町内会で活発なところとそうでないところがあり、それをどうしたらよいのかというところを議論してほしいという理解でよいのか。

○事務局：

西東京市全体として、自治会・町内会で活発なところとそうでないところをどうしたらバランスよくできるかという点を念頭に置いているが、必ずしも、自治会・町内会だけではなく、他の関係機関も含

めた連携の仕組みを検討していただければと考えている。

○委員：

自治会・町内会があまり活発ではないため、市民の方々でもう一度活性化してほしいという理解でよいか。

○事務局：

ご指摘の点もあるが、西東京市への転入者は若い世代が多く、自治会・町内会の重要性や意義があまり良くわかっていらっしゃらない方が多い。そのため、そのような人たちをどうやって地域に取り込めるかという点も検討していただけたらと考えている。

○委員：

西東京市内には、各地区に様々な組織があるため、あえて自治会・町内会にこだわる必要はないのではないか。

重要なのは、地域で行事を行うときに、これまでかかわってこなかった人たちをいかに取り込めるかということではないか。

もっとも、現在は魅力のない行事になっている。市民の参加を促すのであれば、行政側ももう少し努力が必要なのではないか。

○委員：

防災訓練は、なかなか参加してくれない。宣伝が足りないのかもしれない。せっかく防災訓練をやるのだから、どうしたら出てくれるのかということを考えていかなければならないのかもしれない。

○委員：

行政側も、地域に押し付けるのではなく、自分たちでもう一度地域を見回って、地域の方に協力を要請すべきではないか。

○委員：

合併する前は、自治会・町内会名簿はあり、組織率は、おおむね5割程度であったと記憶している。旧田無市では、自治会・町内会は、防犯協会の支部のような位置付けであった。

ところが、だんだんと自治会・町内会に加入していた方が抜けてしまい、その影響で解散してしまう自治会・町内会が結構出てきたものと思われる。

資料では、空白地域となっている住吉町にも自治会・町内会が存在していた。おそらく、資料には、所管課で把握しているものだけが掲載されているものと思われる。もっと各地域に足を運んで、徹底的に調べないといけないのではないか。

この委員会の1つの狙いは、自分たちの街は自分たちで守ろうということにあると思われる。そこが行政の狙いなのではないか。行政がどんな狙いをもっているのかを分かりやすく説明したほうが良いのではないか。

○委員：

東町には自治会があるのか。どんな自治会か。

○事務局：

あると聞いているが、自治会・町内会名を出すことについては、各自治会・町内会の中で了解を得ないといけない。

○委員：

東町には、むつみ会などがあつたと記憶しているが。

○事務局：

先ほども申し上げたが、都営住宅や公団住宅は、それぞれ棟で、自治会・町内会を形成しているので、全部把握しているわけではない。

○委員：

行政として、自治会・町内会への支援はどのように行っているのか。

自治会に会費を支払うのが嫌なので、自治会を作らないということもあるようである。また、転入してきた方は、既存の自治会・町内会にお金を払いたくないというようなことも聞いたことがある。

○事務局：

その一方で、自治会・町内会を作りたいという方もいる。他市から転入されてきた方は、他市にはあるのに、なぜ西東京にはないのかと思っていらっしゃる方もいる。

○委員：

自治会・町内会について、これからどうしていくべきか、しっかりと勉強していかなければならないと考えている。

○委員：

消防では、地域についての情報をかなり持っている。協働コミュニティ課では 70 強の自治会・町内会を把握しているようだが、私のほうでは、200 ほどの自治会・町内会を把握している。

その 200 ほどの自治会・町内会をプロットした地図を見ると、自治会・町内会のない地域がかなり多いことが分かる。東久留米市や練馬区では、すべて網羅されていることから、このような分布状況は、かなり特異であるといえる。

消防の観点からいっても、隣三軒両隣で、助け合わないといけないが、自治会・町内会のない地域に、今から新しい組織を作るというのもなかなか難しい。

○委員：

消防、防犯、民生など、1つの地域に様々な組織があるので、自治会・町内会が弱体化してしまうのではないか。

地域の方々が、会費に見合い、よほど魅力を感じる自治会・町内会ではないと立ち上がらないのではないか。

○委員：

中町地区にはコミュニティ組織が何もない。民生委員が高齢者を訪問するだけで、ほとんどコミュニティが機能していない地域がある。そういった地域で、災害が発生したらと思うと、とても恐怖を感じるため、コミュニティ組織がない地域をどのようにしたらよいかを話し合っただけだったらと思う。最初からできないというのではなく、どうしていったらよいのかを検討していただきたい。

○委員長：

西東京市は、コミュニティ機能がある地域、減退している地域、ない地域があり、かなり特異な状況である。

西東京市には、既存団体があるが、基盤となる自治会・町内会を作って、それと既存団体との役割を整理したほうが良いのではないかと考えている。何かしらの組織が、地域に被らないといけなのではないかと考えている。

情報伝達する命令系統があって、全市に広がるような仕組みづくりが必要なのではないかと思う。

○委員：

会費だけ集めて、大変な思いして運営していくものが自治会・町内会だとするならば、そういった組織を作り、広げていくべきではないと思う。

「こんな自治会・町内会があったら入りたい」といった議論ができればいい。できるところから、皆さんの知恵を出し合っただけならいいと思う。

○委員：

小学校の校庭で、高齢者の方が集まり体操を行っているが、そこでは、高齢者が一生懸命に子供たちに挨拶を教えている。高齢者は、生きがいがあって子供たちを見守っているようである。そういう組織が活性化していけばいいのではないかと思う。

無理やり会費を集めるような加入促進をするのではなく、先頭に立ってやってくれる人が必要だと思う。

ほんの小さいきっかけから組織づくりはできると思う。大掛かりのことを最初からやろうとしたら無理だと思う。

○委員：

そうした考えは大事だと思う。子供は親から「知らない人に話しかけないように」と言われているようで、高齢者の方が、公園で遊んでいる子供に声をかけても、あいさつもしない。そんなコミュニティであってはならないと思う。

○事務局：

西東京市においては、自治会・町内会、防災や福祉などそれぞれ組織が各地域でバラバラ、並列な状態にある。今後は、ふれあいのまちづくり事業のような形で、様々な組織が連携して、地域力をアップしていくようなことを進めていきたいと考えている。

○委員：

話は変わってしまうが、防災訓練のときは、自治会・町内会が中心にやっているようであるが、他の様々な団体には声をかけているのか。

○委員：

消防では、様々な団体にお声をかけさせていただいている。ただし、何かしらの組織に入っていないとお知らせができない状態である。

○委員：

せっかく実施するのであれば、多くの参加者がいないともったいない。

○委員：

動員はかけてはいるが、毎回同じ内容を行ったり、暑い時期に実施したりと、課題があることも事実である。また、参加を呼びかける組織がないと参加されたことのない人に声をかけることすら難しい。自治会・町内会があったほうが、より多くの人に声掛けができると思う。

自治会・町内会であれば、地域単位で区切られているので、災害があった時に、一番助け合いがしやすい。自治会・町内会を新たに設立することが難しくても、簡単にできる組織づくりが提案できればいいのではないかと思う。

○委員長：

予定終了時刻を過ぎてしまったので、議論の続きは、次回以降に詰めていただけたらと思う。

議事（4）その他

○委員長：

議事（4）その他について、事務局から何かあるか。

○事務局：

第2回の検討委員会は、10月を予定している。詳細な日程は未定であるが、本日の開始時刻と同じ18時以降から開始したいと思う。場所についても、田無庁舎を考えている。追って連絡させていただく。

○委員長：

これにて、本日の検討委員会を終了する。